

【学会報告】

第 72 回日蓮宗教学研究発表大会 報告

第 72 回日蓮宗教学研究発表大会が、令和元年 11 月 8 日(金)から 9 日(土)にかけて、立正大学にて開催されました。

本大会は日蓮宗宗務院・立正大学・身延山大学の三者持ち回りで毎年開催される日蓮宗の学術大会であり、また 72 回を数える日蓮宗を代表する歴史のある教学研究の場でもあります。

参加者は大学院に在籍する若き研究者から、各専門分野の大家に至るまで広く門戸が開かれており、研究内容も日蓮教学・教団史を始め、広くは仏教学・仏教文化、さらには現在の宗教学的研究に至るまで、多岐にわたる最新の研究が発表されました。



〔身延山大学関係者発表題目〕

- ・身延山流声明の成立と展開に関する試論 (池上要靖教授)
- ・近世日蓮宗寺院における伽藍配置の特徴
-滝谷妙成寺の事例を中心に- (望月真澄教授)
- ・『観心本尊抄』の題号について (庵谷行亨教授)
- ・本妙日臨における日蓮聖人図顕大曼荼羅の書写
-始願本尊を中心に- (桑名法晃助教)
- ・日蓮宗寺院と大名家 -恵光寺と水野家- (木村中一准教授)

